

平成二十三年 度 入 学 試 験 問 題

国 語

第 三 回

【注意事項】

- 一、試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- 一、問題は一ページから五ページまでです。
- 一、解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- 一、問いの中で、字数の指示がある場合は、句読点、記号等も字数に含みます。
- 一、解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「スロー・リーディング」とは、一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆつくりと読むことである。鑑賞の(1)を惜しまず、その(1)にこそ、読書の楽しみを見出す。そうした本の読み方だと、ひとまずは了解してもらいたい。スロー・リーディングをする読者を、私たちは、「スロー・リーダー」と呼ぶことにしよう。

一冊の本を、価値あるものにするかどうかは、読み方次第である。たとえば、海外で見知らぬ土地を訪れることをイメージしてみよう。(2)出張で訪れた町を、空き時間のほんの一、二時間でザッと見て回ると、一週間滞在して、地図を片手に、丹念に歩いて回るとでは、同じ場所に行ったといっても、その理解の深さや印象の強さ、得られた知識の量には、大きな違いがあるだろう。旅行は、行ったという事実の意味があるのではない(よくそれを自慢する人もいるが)。行って、どれくらいその土地の魅力(魅力)堪能できたかに意味がある。

読書もまた同じである。ある本を速読して、つまらなかった、という感想を抱くのは、忙しない旅行者と同じかもしれない。じっくり時間をかけて滞在した人が、「えっ、あそこにくわいしいレストランがあったの！ 行かなかったの？ あそこ景色は？ えっ、ちゃんと見てないの？」と驚き、不憚に感じると同じで、スロー・リーダーが楽しむことのできた本の中の様々な仕掛けや、意味深い一節、絶妙な表現などを、みんな見落としてしまっている可能性がある。速読のあとに残るのは、単に読んだという(3)だけだ。スロー・リーディングとは、それゆえ、得をする読書、(7)ソンをしないための読書と言いつてもいいかもしれない。

丁寧に本を読むという意味では、昔から、「熟読」、「精読」といった言葉があるが、スロー・リーディングは、そうした読書態度を、包括するものとして理解してもらえればよいだろう。その方法の一つとして、たとえば本書では、(4)書き手の視点で読む、書き手になったつもりで読む、という読み方を紹介している。

私がこの読書法をおすすめしたいのは、私自身が、作家になる前となつた後とでは、本の読み方が変わってきたこと、それによって本に対する理解が深まったことを実感しているからである。中学、高校時代に、単に一読者として小説を読んでいた頃には気がつかなかった様々な仕掛けや工夫

に注意を払うようになってから、私は(1)アラタめて、読書は面白いと感じるようになった。そして、私だけではなく、実は作家の多くは、他人の本を読むときにも、(A)書き手の視点で読む、という作業を行っているのである。

推理小説が好きな人は、最後の謎解きのための「伏線」に注意しながら本を読む習慣があるだろう。(9)ネンキの入った愛好家は、そうした伏線のパターンをたくさん知っているから、次第に最後まで読まずとも、結末が読めるようになってくるものである。

推理小説というジャンルに明瞭に見て取れる(5)伏線は、実は、他のジャンルの小説にも様々な張り巡らされており、それだけでなく、論文やエッセイの中にも、大抵、仕込まれているものである。一般的に、推理小説以外のジャンルでは、謎解きが読書の最終的な到達点ではない。だから、ここでいう伏線も、(B)、具体的な結末に結びつくものではなく、作者が読者に訴えたいことだとか、登場人物の繊細な感情の動きだとか、そういった(10)プロットとは関係のないことを準備する場合がある。前の場面で、登場人物が見せたちよつとした仕草が、次の場面での言動の意味を左右する、といったように。こうした伏線は、見落としてしまったとしても、推理小説の謎解きのように、小説がそこから先へは進めないということには必ずしもならない。(C)、速読の際には、しばしば見落とされてしまうのである。

しかし、読書を今よりも楽しいものにしたと思うなら、まずはそうした、書き手の仕掛けや工夫を見落とさないというところから始めなければならぬ。

作家のタイプにもよるが、(D)、三島由紀夫などは、様々な技巧に非常に自覚的な作家だったので、スロー・リーディングすると、ここまで気をつかうのか！ というほど、(11)コマかな仕掛けがいくつも見えてくる。しかし、その多くは、実はほとんどの読者に気づかれないまま、埋蔵金のように(12)今も小説の(13)イタるところに眠っているのである。

私自身も、もちろん、小説を書くときには、人に話せば笑われるほど、実は些細な点にまでいろいろな工夫を施している。そんなことは単なる自己満足じゃないかと言う人もいるかもしれない。しかし、読者からの感想を読んでみると、ちゃんとそれに気がついてくれ、その分、深く小説を理解し、楽しんでくれる人たちが必ずいるのである。逆に、スロー・リー

ディングしてもらえれば、十分に理解できるはずの事柄が読み落とされてしまっているときには、やはり寂しい気持ちになる。

そう、書き手はみんな、自分の本をスロー・リーディングしてもらおう前提で書いているのである。

(平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』)

★包括……いろいろなことがらを、大きくひとつにまとめること。

★プロット……小説の筋書き。

問一 二箇所(1)に共通して入る語を、次のア～エの中から一つ選び

記号で答えなさい。

ア 手続 イ 手際 ウ 手心 エ 手間

問二 — (2)「出張で訪れた町を、空き時間のほんの一、二時間でザッと見て回る」とありますが、これはどのような本の読み方を例えたもので

すか。本文中から二字で抜き出しなさい。

問三 (3)に入れるのに最もふさわしい漢字二字の語を、本文から抜き

出しなさい。

問四 — (4)「書き手の視点で読む」とありますが、具体的にはどのように

読むことですか。本文の表現を用いて、四十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問五 — (5)「伏線は、実は、他のジャンルの小説にも様々に張り巡らされ

ており」とありますが、推理小説以外の小説に伏線を張り巡らすとは具体的に作者がどうすることですか。本文の表現を用いて、四十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問六 A Dに入れるのに最もふさわしいものを次のア～エの中

から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ たとえば ウ 必ずしも エ やはり

問七 — (ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答え

なさい。

ア たとえば限られた時間の中で素早く動き回る旅行者のように、本に込められた書き手の感情を見落とさないよう本を読むべきである。

イ たとえば地中に埋まったままの宝物を探した人のように、書き手が用いた様々な技巧を探し出し、その苦勞を楽しみながら本を読むべきである。

ウ たとえば推理小説が好きなのように、他のジャンルの小説を読むときも、最後の謎解きのための「伏線」に注意しながら読むべきである。

エ たとえば旅先の名所や美しい景色を見落とした人を不憫に思う旅行者のように、大量の本を読んでもおごることなく謙虚に本を読むべきである。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「オ、オレも、乗りたい！」
むっつりしていた美風が、とつぜん言葉を発した。(1) 顔は唯尚くんのほ

うに向けているけれど、目はわたしのほうを向いていた。

「オレ、グライダーに乗りたいたいです」

(2) 「わたしに言われても……」

ちよつと意地悪く、美風に言い返してあげた。だって、唯尚くんに失礼な態度だもの。

「体験飛行ならグライダークラブでいつでも受け付けているよ。ただ、諸経費含めて料金が一万円近くかかるけれど……」

タダとは思ってないけれど、すぐに乗れるような気分になっていたから、一万円にはがっくりしたような、ほっとしたような……。おもしろそうだけど、やっぱり怖いよ。エンジンのついたでっかいジャンボジェットじゃなくて、あんな小さな二人乗りの、しかも動力がないグライダーなんだもの。

「……………」

美風は足元の草を A にらんでいた。眼力で焦がすつもりなんだろう

か。今日は乗れないことを唯尚くんに伝えるために、わたしはちよつとちやかして言った。

「お小遣い、貯めなくっちゃね」

わたしには、おばあちゃんから貰った秘密のお金があるから、それを使えば乗れる。このところの電車賃やお小遣いの補填に、おばあちゃんの思

い出のお金をじわじわ減らしていくよりは、わかりやすいものに B 使

つてしまうほうが、いいのかなと思う。

でも、美風が一万円を用意するのは、無理だろう。
「グライダーって、一人じゃ飛べないところがおもしろいよね。飛び立つ

までにたくさん人の力を借りなきゃいけない。それがわずらわしくて

モーターグライダーに乗りかえる人もいるけれど、みんなで飛ばすから、

こうして見ているだけでも楽しいんだ」
滑走路では、次の離陸の準備作業が進められていた。別のクラブのメン

バーたちが、機体のまわりに集まっている。

準備が整い、セスナ機がグライダーを曳航していく。その河川敷でけたましい騒音を立てるのは、セスナ機のエンジンだけだ。自然の力だけで滑空する上空のグライダーは、鳥のようにとても静かに空にとけ込んでいる。

ワイヤーの離脱を確認すると、唯尚くんは最初に腰かけていた椅子に戻った。

大きめの書類の束と、コンパクトなMDプレーヤーもある。

「お仕事？」

(3) 「いやあ、これは、天気図を書く練習をしているんだ。僕はまだまだなんだけどね、うちのクラブには詳しい人がいるから、書いたものをチェックしてもらっているんだよ」

書類の束のようなのは天気図用紙というものだそうで、日本列島とアジア周辺の輪郭の地図が、薄い(4)色のインクで印刷してあった。

ちよつとやってみようか、と、唯尚くんはボリュウムを上げて再生した。

《気象庁予報部発表の九月十日、正午の気象通報です。はじめに今日正午の各地の天気です。石垣島では、北北東の風……》

それは、先月のラジオの番組を録音したものらしい。ふつうのお天気ニュースとは違い、アナウンサーがデータをひたすら読み上げていく、冷たい感じの放送だ。

《……潮岬では、北東の風、風力三、くもり、一四ヘクトパスカル、三〇度……》

声に合わせて、天気図用紙に唯尚くんの持つ鉛筆が走る。アジアと日本列島の地図に、風を表す矢のような記号とくもりや雨の記号が入れられ、さらに数字がすばやく書き込まれていく。

《……停滞前線が、北緯四〇度、東経一四二度から、北緯四二度、東経一四八度へのび……》

サーッサーッと鉛筆が擦れて、手書きの天気図が仕上がっていく。等圧線や前線がくつきり滑らかに整っていく。まるでスケッチを仕上げているようだ。

唯尚くんは途中で再生を止めた。

「こんな感じで書いていく。気象通報は一日三回ラジオで放送されるんだ。ラジオを聴きながらでも書けるようになるのが目標んだけど、僕はまだ録音して、何度も聴き返さないと、難しくって」

観測データから自分で天気図を作り出せるなんて、すごいと思う。でも、なんのためにわざわざ書いてあるのかわからない。

「グライダーを操縦するには、テレビの天気予報では、だめなんですか」

「これはグライダーとはあんまり関係なくて、僕の趣味みたいなものはただ、空が好きだから、空のことを、もっと知りたいんだ。」

この等圧線というやつ、理科で習った？ まるで山の等高線みたいに、気圧の形がわかるよね。空気の山みたいだろ。僕たちの頭の上には、刻々と姿を変えていく透明な山がたくさんあるんだよ。天気図って、目に見えない透明な山の地図みたいなものだと思う。しかもその透明な地図には、刻々と移り変わる未来が書いてある。だって、天気図を見れば、明日雨が降るかとか気温は暖かくなるかとか、読み取ることができるじゃないか。そういうのって、おもしろいと思わないか？」

そう言われれば、おもしろいと思う。晴れや雨のマークしか気にしないテレビの天気予報では、意味のない模様に見える天気図が、日々移動していく透明な山とか未来がわかる地図だと言われると、それが読めたり書けたりすることは、とても不思議な力を持っている人みたいに思えてくる。

「唯尚くん、すごいなあ……」
わたしはただ感心してしまった。

あの夏、紙ヒコーキを飛ばして勉強をさぼっていた唯尚くんが、今では大学生で、グライダーの操縦免許取得を目指していて、天気図まで書けるんだ。

「オレも、書いてみたいな」

美風がぼそつと言った。唯尚くんが顔を向けると、あわてて目をそらしていた。

「タカさんも、書けるよ。一時期、登山をやったそうだから。山登りをする人は、変わりやすい山の天候を知るために、天気図を書ける人が多いんだ。あの人だったら、僕より上手に教えられるんじゃないかな」

「えー、あのタカちゃんか？」
「でもオレ、タカさんのことよく知らないし……」

美風は **C** 唾を飲み込んだ。それから続きを言うまでに、唯尚くんはグライダークラブの人に呼ばれて、席を立った。仲間のグライダーの手伝いに駆り出されたのだ。

美風は、唯尚くんの前では無口になってしまふ。嫌いではないはずなの

95

90

85

80

75

70

65

に………ということは、嫌いの逆ってこと？

「美風ちゃんは、唯尚くんが好き？」

内緒話のようにこっそり訊いたのに、美風ははっきり答えた。

「好きだよ。あいつ、おもしろいじゃん」

「(5) そういう「好き」ではないんだけど。」

「じゃあなんで、そっぽ向いててちゃんとしゃべんないの？」

「それは、なんか、その、照れくさいというか」

D、顔が赤くなつたのを、わたしは見逃さなかった。

美風は、唯尚くんに、恋してる？

わたしは **(6)** をかけてみた。

「唯尚くん、かっこいいよねえ。昔に比べたら、すごくかっこよくなつたよね」

「うーん。そうかな。オレ、かっこいいっていうの、イマイチわかんないんだけど、猿顔のわりに悪くはないと思う。唯尚は昔から優しかったし、なんだかすごく大きく、光って見えたよなあ」

話しているあいだも、美風の目はずっと唯尚くんの姿を追っていた。
「もしか、無自覚？ あり得る。男子みたいな美風なら、恋愛に免疫がなく、自分の恋心に気づいてなくても仕方がない。片思いくらいならわたしだって経験はあるから、そうなんじゃないかと思う。」

なあんだ。

わたしはにやけてしまった。

(梨屋アリエ『空色の地図』)

115

110

105

100

★曳航……引っぱること。

問一——(1)「顔は唯尚くんのほうに向けているけれど、目はわたしのほうを向いていた。」とありますが、美風がこのように振る舞うのは唯尚くんのことをどのように思っているからですか。四十五字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二——(2)「わたしに言われても……」とありますが「わたし」がこのように言ったときの心情を四十字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二——(2)「わたしに言われても……」とありますが「わたし」がこのように言ったときの心情を四十字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問三

——(3)「いやあ、これは、天気図を書く練習をしているんだ。」とありますが、唯尚くんがそのようにするのは、天気図をどのようなものだと感じているからですか。五十五字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問四

——(4)「橙色」とありますが、色を表す言葉を用いた次の一～五の慣用句の意味としてふさわしいものを、「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 真つ赤なうそ
- 二 白羽の矢が立つ
- 三 青菜に塩
- 四 朱を入れる
- 五 白黒をつける

〔意味〕

ア 善と悪をはっきりさせる
 イ 急に元気がなくなってしまう
 ウ 多くの中からとくに選ばれる
 エ まったくのでたらめである
 オ 文章をなおしたり、書きたしたりする

問五

——(5)「そういう『好き』ではないんだけど。」とありますが、「わたし」は美風にどういうことをききたかったのですか。本文の表現を用いて、二十字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問六

(6)に当てはまる漢字を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 釘 くぎ イ 鎌 かま ウ 鈴 すず エ 針

問七

A ~ D に入れるのに最もふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア ほんのりと イ キツと ウ ごくつと エ バンと

問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア わたしは、唯尚くんが、美風に好かれていることを迷惑に思っているのではないかと考えている。

イ わたしは、美風の唯尚くんに対する思いを知り、それをタカさんへ振り向けようとしている。

ウ わたしは、唯尚に恋心を抱いており、美風が恋愛に免疫がないことを知って安心している。

エ わたしは、美風が自分の本当の気持ちに気づいていないことをほほえましく思っている。

